

## 新規就農者のイチゴ栽培技術の習得による収量確保

対象者 甲賀市土山町 K氏

### 【普及活動のねらい】

K氏は、長年、農業法人に勤務しながら、農業に強い魅力を感じてこられ、自らの経営がしたいと思われていました。この夢を叶えるため、イチゴ農園で研修を受けながら準備を進められ、令和3年4月に就農されました。

しかし、作業の経験はあるものの、自ら生育を判断し栽培した経験が無い上に、就農直後から育苗ハウスや本ぽハウスの組立の施工管理をしなければなりません。そこで、必要な定植苗や果数を確保できるよう、生育や病虫害発生程度に応じた自らの判断による栽培作業を支援するとともに、栽培施設を定植適期までに施工できるよう施工管理を支援しました。

### 【普及活動の内容】

#### 栽培開始にむけての計画策定と実施支援

6月上旬までは、親株用種苗を確実に確保し、育苗に必要な技術の習得を図るため、栽培管理リストを作成し、育苗作業の要点を共有しました。また、ハウスの施工状況を共有し、作業に遅れが見られるときは、施工業者と再度計画を確認するよう促しました。

#### 栽培管理支援

7月上旬に本ぽ用苗の採苗を開始されてからは、ほぼ毎週、現地で葉数管理や培養液管理の技術習得を支援しました。加えて、病虫害に対して適切に防除ができるよう病虫害の発生状況や作用機構を踏まえた農薬使用を提案しました。9月中旬の定植に向けては、生育や気候に応じた栽培管理を自身の判断で実施できるよう生育状況を現地で共有し、定植後は株の草勢に応じた着果管理についても確認しました。併せて、病虫害の発生状況を踏まえた薬剤の選定と複数薬剤のローテーションによる防除を提案しました。さらには、栽培管理リストによるチェックを継続することで、必要な作業が実施できているか定期的に確認し、未達成の項目がある場合はその都度改善方法を検討しました。

### 【普及活動の成果】

足繁くハウスを訪問し各作業の状況を確認してきましたが、目標の親株数と定植用苗数が確保でき、ハウスの施工については予期せぬトラブルがあり当初計画から遅れたものの、9月中旬からの定植に間に合うことができました。そして、12月から順調に収穫することができました。また、チェックリストに基づき、栽培管理や病虫害防除を定期的に振り返ることで、遅れていた作業や実施すべき内容を再確認し、次年度に向けた改善策を検討することもできました。今後も、安定した経営に向け、支援を継続します。



定植時の注意点について説明



着果管理について説明